

第1回 防府市農林業政策懇話会 議事録等

■開催日時・場所

平成30年12月20日（木）午後2時から午後4時20分まで
防府市役所1号館3階南北会議室

■次第

- 1 開会
- 2 議事
 - (1) 防府市農林業政策懇話会の設置について
 - (2) 山口県「農林業の知と技の拠点」形成基本計画について
 - (3) 防府市の農林業の活性化に関する提案等について
- 3 その他

■配布資料

	資料名	番号
1	防府市農林業政策懇話会設置要綱	【資料1】
2	防府市農林業政策懇話会委員等名簿	【資料2】
3	山口県「農林業の知と技の拠点」形成基本計画	【資料3】

■出席者名簿

敬称略・順不同

種別	氏名	所属／品目	出欠
会長	池田 豊	市長	出席
農林業関係団体	田中 勇	防府とくち農業協同組合代表理事組合長	出席
	戸田岸 巖	山口中央森林組合代表理事組合長	出席
	藤井 伸昌	防府市農業委員会会長	出席
	原田 剛	山口県農協青壮年部組織協議会顧問	出席
流通関係団体	吉武 健志	(株)ユアーズバリュー代表取締役社長	出席
	橋本 保	農協直売所出荷者協議会会長	欠席
農業関係者 (品目代表)	原田 道昭	米・麦	出席
	光井 憲治	米	出席
	小林 淳治	野菜	出席
	戸倉 正秀	花き	出席
	倉重 宗眞	柑橘	出席
	河本 雄治	畜産	出席
農業関係者 (・農大研修修了者 ・UJIターン ・農業後継者 代表)	江越 律子	野菜	出席
	原田 慎司	野菜	出席
	押元 大作	野菜	欠席
	柳 俊則	花き	出席
	湯面 芳恵	果樹	出席
	池田 英雄	畜産	出席
公募委員	石川 眞平		出席
	森重 豊		出席
山口県	藤村 正己	山口県農林水産部次長	出席
オブザーバー	桑原 恵利	山口県農林総合技術センター所長	出席
	沖 敏雄	山口県農林総合技術センター 農業担い手支援部部長 (山口県立農業大学校校長)	出席
	沖原 一則	山口県山口農林水産事務所所長	出席
	服部 一朋	山口県農地中間管理機構機構長	出席
	山本 一之	(公社)防府市農業公社事務局長	出席

種別	氏名	所属
事務局	赤松 英明	産業振興部 部長
	白井 智浩	産業振興部 部次長
	内田 健彦	農業委員会事務局 事務局長
	戸田 伸一	産業振興部農林水産振興課 課長
	黒本 正明	産業振興部農林漁港整備課 課長
	嶧田 直朗	産業振興部農林水産振興課 課長補佐
	岸野 恵美	産業振興部農林漁港整備課 課長補佐
	澁谷 勝彦	産業振興部農林漁港整備課 技術補佐
	宇佐川 渉	産業振興部農林水産振興課 農政係長
	飯田 志津江	産業振興部農林水産振興課 農畜産係長
	仲嶋 徹	産業振興部農林水産振興課 林務水産係長
	岩田 宏美	産業振興部農林水産振興課農政係 主任
	重田 直輝	産業振興部農林水産振興課農畜産係 主任
	松下 洋平	産業振興部農林水産振興課農政係 主任主事

■会議録

1. 開 会

市長挨拶

2. 委員紹介

(事務局から各委員の紹介)

3. 防府市農林業政策懇話会設置についての説明

(事務局から資料1を説明)

4. 山口県「農林業の知と技の拠点」形成基本計画についての説明

(山口県農林水産部部次長から資料3を説明)

5. 各オブザーバーによる意見

山口県農
林総合技
術センタ
ー所長

本センターが県基本計画にどのように関わられるかを、2点ほどお話ししたい。

1点目は、新技術開発に向けた企業との連携。これからは、限られた人数で農業生産ができるスマート農業を進めていきたい。また、現在、6次産業化の技術開発、更には人材育成も併せて進めているところ。これらには、地元企業を中心とした企業や大学との連携が欠かせない。

特に、スマート農業は、今後展開していくべきものとして、研究開発に力を入れたいと考えている。スマート農業は、従来からの栽培技術と、人工知能や情報通信技術等の先端技術とを組み合わせることでやっていくもの。機械システムだけに任せていては、いいものは出来ない。ベテラン農家の作業管理技術もデータとしてシステムの中に組み込んでいく。

また、現在も、防府市内の企業とも連携し、企業が持つノウハウ等を取り込みながら研究を進めているが、今後も、企業との連携をしっかりと進めていきたいと考えている。

2点目は、農林業者との連携。これは、技術の普及に必要なことである。

例えば、新技術について、農大学生や社会人研修生への講義をしていく。また、現場での技術実証やセミナーを通じて、精度をより高め、迅速に普及させていく。実際に農林業に関わっている人たちから現場ならではの意見を出していただきながら、より使い勝手のよい、現場に向く実践的なものとして精度を高めていく。

以上2点から、防府市での農業の成長産業化をサポートしていきたいと考えている。

山口県立
農業大学
校校長

本校は、昭和9年に設立され、今年で84年目。卒業生は4,000人を超え、県内外で活躍している。校内敷地面積は48ha。学生教育と社会人研修の2本柱。現在、学生部門には58名、社会人研修部門には18名が在籍している。最近5ヵ年の入学状況は、1学年定員40名のうち、園芸学科25名に対し68%、畜産学科15名に対し77%。このうち、現在、防府市出身の学生は、1年生に3名、2年生に3名いる。卒業後は、63%

は集落営農法人などの農業法人に就農している。社会人研修生は、これまで19名が防府市内に就農された。

今後は統合のメリットを最大限に活かすべく、カリキュラムの見直し等も行うこととしており、防府市の農林業の人材、担い手の確保、育成にお役に立てればと思っている。

山口県山口農林水産事務所
所長

本事務所では、特に、知と技の拠点整備に関連する項目として、主に、担い手の確保、農林水産物の需要拡大、需要に応える生産力の増強、基盤整備の強化に取り組んでいる。

担い手の確保では、集落営農法人などの中核経営体の育成や、市や農大と連携した新規就農者の確保など。

需要拡大では、県産農林水産物のブランド化、地産地消、六次産業化など。

需要に応える生産力の増強では、農業分野では、集落営農法人等を中心に、結びつき米や小麦など土地利用型作物の生産拡大。特徴ある品目については、産地パッケージ計画に基づき、生産力の増強と新規就農者の育成を同時に進めている。

また、農試、農大と連携し、自動走行トラクター、施設園芸の環境制御等のスマート農業も推進しているところ。

林業では、現在、県内のスギ、ヒノキの人工林の7割が利用期を迎えている。

防府市内では、旧カネボウの跡地に、全国的にも最大規模のバイオマス石炭混焼発電所の建設が、来年夏完成に向け進んでおり、木材チップを年間4万トン以上使用する計画。木材需要に対応するために、木材の伐採排出の効率化、木材供給の強化に取り組んでいる。これらには、研究分野での新しい技術の導入が期待されている。

基盤整備では、生産コスト削減のために、農地の大区画化、高収益作物の生産のための水田高機能化などの基盤整備に取り組んでいる。また、牟礼小野農道については、全体のうち、1期、2期が完了し、現在3期の整備を進めている。農道の整備により、農産物の物流の効率化、移動時間の短縮、新たな拠点ができれば、アクセスの向上が期待できる。

以上、これまでも、農試、農大と連携して行っており、今回の統合により機能強化に期待する。今後も連携を強化していきたい。

山口県農地中間管理機構
機構長

本機構では、農地中間管理事業を使いながら、担い手への農地集積の手伝いをさせていただいている。制度開始から4年、今年3月までで、転貸面積、賃貸料では中国四国地方でNo.1の成果を挙げた。これも地域の皆様の取組みの成果とっており、この場を借りてお礼申し上げます。

現在、地域の取組みは出尽くした感があるが、担い手の高齢化などで、農地の流動化、集積は極めて重要な課題であるので、今後とも、皆様と一緒に事業を進めていきたい。御協力お願い申し上げます。

(公社)防府市農業公社事務

本公社では、農地の保全管理、農作業受託者協議会への仲介、無人へりによる農薬散布などを行っている。

先程から話が出ているように、生産性の向上、スマート農業など、所得の拡大が一番必

局長 要だと思っている。農家はあまり儲かっていないと思うので、底上げをしていくことが一番必要ではないかと思っている。

会長 ありがとうございます。いろいろ、いい意見がありました。これからの参考にさせていただきます。

6. 各委員による意見

A委員 現在、全国すべてのJAで自己改革を行っており、当JAでも行っている。基本目標となるのが「農業所得の増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化に向けて」である。

先月開催された山口県大会にて、基本目標を達成するために、「農業を守る、伝える」「地域を守る、伝える」「協同組合力を高める」「県民理解を高める」という4つを決議している。

御承知のとおり、来年4月1日に県内1JAとなり、全国で5番目の県域JAとなる。

これからの農業、いろんなことが想定されるが、農業協同組合は、組合員あつての組織であり、相互扶助の組織である。

このような会を創っていただいた市長にまずはお礼申し上げるが、言いたいことは言える組織になっていきたい。これからは、市にも意見を言っていく。

会長 ありがとうございます。

B委員 本組合は、防府市、山口市を管轄している。山口市には阿東にも組合があり、現在、合併の話が進行していることをお知らせしておく。

山林所有者は高齢になり、長引く価格の低迷により「山はいらない」「誰か買わないか」と寂しい話をよく聞く。来年4月から、国の「新しい森林経営管理制度」が始まる。林業の成長産業化と、森林資源の適切な管理を目標としており、森林所有者自らが管理しない場合は、市町村に委ね、市町村は、林業経営に適した森林を、意欲のある経営者に再委託、再委託できない場合は、市町村が管理を実行する、というものである。そうしたことから、市としっかり連携し対処していかなければならないと思っている。

そこで、市にお願いしたいのが、林業の専門職の設置である。市内の山の状況をしっかり見てもらうためには必要ではないだろうか。

また、個人的なお願いであるが、農大に技術センターが来ることに伴い、林業大学校も一緒に創ってもらえないだろうか。県内の就職にも繋がるのではないだろうか。県にも御協力いただきたい。

林業を目指す青年に対しては、国の給付金事業がある。農業とともに、林業の活性化にも御協力をお願いしたい。

会長 ありがとうございます。いろいろご提案ありがとうございます。皆さんも思い切って、

遠慮せずご発言いただきたい。

C委員

私の地元は、集落全体が農振農用地で、市内では比較的大きい規模の農家が集まっている。ここ10年で担い手数は減少傾向にあるが、この1年で、相次ぐリタイアにより、昨年時点で5名いた認定農業者は、現在、自分を含め2名のみになり、自分も急激に規模拡大することとなった。

担い手の減少は予測できたことだが、自分たちの予測をはるかに超えるスピードで進んでいることを実感した。

農地の受け手については、集落営農を含め組織立って考えなければならないが、個人に委ねられていることが多いのが現状である。よって、担い手個々の事情で、地域の状況がすぐ変わってしまう。組織立って動く方法を考えなければならない。地域の農業をどうするかは、地域のみなさんで考えていただかないといけない。地域それぞれで事情が違う。こういった中で、行政がどういったフォローが出来るかをしっかり考えて、対策を練っていただきたい。

会長

担い手減少の問題は県下同じであるが、防府市は水田が多いので、その傾向が強まるのではないかと懸念している。しっかりと対策を考えたい。

D委員

1点目。市内に公設市場があるが、最近、盛り上がり欠けているのではないかと。出荷者も減少しつつある。生産者がせっかく作っても、売り込む先がなく、直売所等に流れている。ぜひ市場を盛り上げてほしい。

2点目。新規就農者は、半数以上が就農計画どおりにっていないのが現状ではないだろうか。農大が地元にあるので、就農後再指導するなり、厳しく対処してほしい。

地域の皆さんから、新規就農者が受給している給付金に甘えているのでは、という声を最近よく聞く。1人前にやられている人もいるが、そうでない人がいると、新規就農者全体がよくない目で見られるのではないかと。

私は、現地研修生には、自分の知識等を正直に教えた。就農後は、JA営農指導員も現場に赴き指導している。

地域には地域に合ったやり方があるので、農大研修生には、農大研修中から、短期間でも地元生産者を訪問するなどしてほしい。

会長

公設市場には、先日足を運び、現状をしっかり把握させていただいているところ。

新規就農者の問題については、いろいろ私も話を伺っている。

E委員

弊社は、医食同源を創業の原点とし、価格ではなく価値で伝えること、地元の生産者と消費者であるお客様との架け橋となること、食で人を健康にし、元気にすることを使命とし、志高い企業を目指している。

山口県、防府市にとって、第1次産業である農林業を活性化させることは、持続可能な

循環型社会づくりのため、また、地方創生のためにも必要不可欠である。

防府市は「三流の都会」ではなく、「一流の田舎」を目指すべきだと思う。新規就農者も若い生産者が増え、防府市の魅力も増し、防府市に帰ってきたい、防府市で働きたいという方が増えることを望む。

結果として、日本の食糧自給率向上にも貢献でき、将来の日本を支える原動力が防府市にある、そうした存在になれるはずである。

目先だけでなく、次世代のため、未来を担う子どもたちのために、今何をしなければならぬのか、夢や希望のある山口県防府市にするために、スピード感をもって、取り組んでいく必要がある。市長が掲げておられる「防府市から農業維新を起すこと」「防府一番」という地方の希望の星になれるよう、弊社も貢献したい。

会長

地元の野菜をいつも店頭においていただき、ありがとうございます。

F委員

代表をしている集落営農法人は、半分中山間にかかっているような地域。土地利用型を主とした経営をしている。担い手の減少により、法人が預かる農地が年々増えている。

集落営農法人も人手不足がこれから加速していくと思われる。昔は、兼業農家の人が、定年退職後に法人に入るケースが多かったが、今は再雇用制度があり、法人に誘うときには既に70歳である。地域の人だけで法人を継続させることはかなり難しい。

そこで、新規就農者とタイアップし、集落営農法人を継続できないかと考えている。

農大卒業後、集落営農法人に就農する人が多いと言われるが、大規模法人でなければ、土地利用型のみでの経営で雇用はできない。雇用するために土地利用型と園芸とを組み合わせた複合型経営をしていくか、雇用ではなく自営の新規就農者とタイアップし、人手が足りないときに手伝ってもらうなど相互に労力を補う形がとれば、もっと発展していくのではないかと。

それと、現在、大道地区には3つの集落営農法人があるが、防府市内にもっと集落営農法人を作っていくべきではないか。自分のところで手を広げられる範囲は、機械の移動を考えると限界がある。

それから、スマート農機は良いが、小規模な集落営農法人では高価で手が出ない。価格の安いスマート農機を開発できないか。農業で一番大変な作業は草刈で、一番時間がかかる。いかに省力化できるかで、農業に対する考え方も変わる。

会長

集落営農法人については、これからの課題だと認識している。しっかり取り組んでいきたい。

G委員

西浦で、水稲とみかんで経営している。妻と二人で従事。息子が二人おり、農業に目を向けてほしいが、目を向けてくれない。魅力がないのだろう。手伝いも望めない状況。

自分の地区では、昔はかなりの戸数が水稲をしていたが、今は私一人。地区内の農地を全部受けて耕作している。高齢化はかなり進んでおり、71歳でも若造。しかし、身体の

ことなど、いつまでやれるかと不安である。周りの農家は、「この機械が壊れたら辞める」「機械が壊れるまでは農業を続ける」と言われているのが現状。

人間にとって、衣・食・住の中で一番大事なのが食べ物だと思うのに、目を向けてもらえない。魅力ある農業、いろんな人が集まってくれるような農業があれば、発展していくのではないかと。若い人が入り、活性化できれば、私も若い人に技術等を教えたりできるのだが、そこまで至っていない。

農繁期の人手不足解消のため、「人材バンク」があると良い。田植えなど、短期間に作業が集中する時期に助けがあれば、もう少し経営面積を拡大できる、という人がいる。また、昔、タマネギ収穫作業に、JAからボランティアを派遣してもらったことがある。気が合う人には今でも農作業を手伝ってもらい繋がっている。「人材バンク」により、活性化や、遊休農地の減少に繋がるのではないかと。

会長 | 農繁期の人手不足の話があったが、大きな課題ではないかと思っている。

H委員 | やさい部会を5月に立ち上げた。春菊、小松菜、ほうれん草、すべてハウス栽培。規格等を慎重に検査し、春菊は、「華城春菊」というブランドで出荷している。

私が一番気にしているのが、新規就農者をいかに取り入れるか、いかに呼び戻すかである。若い人は、やった価値が出ないといけない。儲かる農業でないと、若い人はついてこない。部会では、新規就農者を受け入れる体制は十分に確保しているつもり。

儲かる農業をやっていくためには、差別化しかないと思っている。部会では、先日、GAP団体認証を取得しているJA大分を視察した。GAPとは、生産工程管理を明確にし、皆さんに安心安全なものを召し上がっていただくための取組みで、東京オリンピック・パラリンピックでは、GAP商品でなければ、選手村等で取り扱ってもらえない。県内でも、認証取得後に需要を伸ばしている法人がある。このような差別化により、部会としては、新規就農者と儲かる農業をしていきたい。

会長 | やさい部会の設立、ありがとうございました。新規就農者対策については、県も市も、しっかり取り組んで参りたい。

I委員 | レザーファン部会では、平成3年から栽培を続け、「防府グリーン」の名称で出荷している。毎年、役員で市場視察をするが、「品質、選別が良い」と好評である。固定客も多い。国内消費は、外国産が多く全体の80%を占めるが、国産は長持ちすると言われ需要があり、単価は外国産の2倍である。防府市は全国3位のレザーファン産地であり、1位を目指して頑張っている。生産者は高齢化し、平均年齢は71歳。これは日本一ではないだろうか。高齢者対策、新規就農者の受入など、いろいろ考えているところ。

会長 | レザーファン部会、頑張ってくださいありがとうございます。

- J 委員 | 防府市のみかんは、昔はたくさん生産されていたが、現在は衰退傾向。担い手の減少と高齢化、生産量減少が進んでいる。
- 農業振興を図るとのことだが、防府市は、農業の街ではなく、工業の街である。防府市に、特産物と言われるものはほとんどない。農業振興は非常に難しい街である。
- いろいろな農産物がある。生産量は多くなくて良いので、特色のあるものを起爆剤として、やっていくべきではないか。柑橘部会では、「天神みかん」というブランド品を立ち上げ、振興を図っている。このような方法が良いのではないか。
- また、新規就農者の問題もあるが、みかんは、5～30年以上のスパンで樹を育てるので、新規就農者が、儲けて生活するのは非常に大変である。基本的には、儲かる農業、魅力ある農業を目指すべきである。技術の習得ももちろん大事であるが、営農が十分できなければ、儲かる農業はできない。営農指導の体制についても力を入れてほしい。
- 会長 | 天神みかんのお話ありがとうございます。
- K 委員 | こういう会を、10～15年前にやってもらいたかった。
- 畜産の現状は、非常に厳しい。相場関係で動くので、自分の努力でいいものが出来ても、せりで負ければ元がとれない。飼料関係でも、輸入が主だが、畜産農家だけでは成り立たず、稲作農家との耕蓄連携が欠かせない。天気の関係も、今年は良かったが、ここ2、3年天候が悪く、飼料加工も難しい年もあった。子牛の仕入れも、酪農家の力が必要。
- 全国的に先細りである。小さい経営体はなくなり、大きい経営体はより大きく規模拡大になっている。
- 飼料や堆肥を持っていくのに困ったりもする。九州では、田だけでなく畑があるから、常時始末できると聞いている。先程から機械化という話が出るが、小規模経営では無理であろう。
- これから先、若い人材を育成する話を聞くが、畜産関係の話は出てこない。規模拡大するにしても人がいる場所は反対が大きいし、新規でやる場合は、資金的にかなりの負担がある。新規参入はなかなか難しい。県、市の御協力をいただき、若い人を育てていきたい。
- 会長 | 今、子牛の価格が高いため、大変厳しい環境かと思う。また、耕畜連携の話が出たが、県も市も取り組んでいるが、今後もししたら良いか考えていきたい。
- L 委員 | 夫婦共に市外出身で、12年前に新規就農した。
- なぜ防府市を選んだかということ、作物が育てやすい環境や気候であること、子どもが育てやすい環境であること、教育、医療も充実していて生活しやすい環境であることが理由である。今、12年経ち、防府市を選びとても良かったと思っている。
- この魅力を、これから農業をしたいな、という人に伝えることができたならと日々思っているが、なかなかそのような機会がない。特に、夫婦で農業をされたいという人には大変おすすりできる場所だと思うので、農業大学校などで、学生ではなく、社会人研修生との

交流の場などで伝えられればと思っている。微力ながら、御協力できればと思っている。

会長 | ありがとうございます。防府の良さをしっかりPRしていただければと思う。

M委員 | 我々の地区も、他と同様に、担い手の高齢化、後継者不足、放棄地の拡大、放置竹林の増加が目に見える。基盤整備が行われていない地区なので、今後は進めていかないといけないと思っている。ため池の管理も含め、人材不足が懸念される。

私自身が農家として実力をつけていかないといけないのは当然であるが、個人ではどうしようもないこともあり、みなさんの御協力をいただいて、将来を見据えて、今やっていると出来ないことを、今回の会を皮切りに進めていきたい。

実際に、今、かなりの人が、辞められている。毎年、夏秋になると、近所の人から「来年はぜひやってくれ」という話ばかりいただくが、全て受けられないのが現状である。

地域としてだけでなく、私はJA青壮年部に属しているが、そこでも、数多くの課題を聞く。まずは、食育に関すること。保育園、幼稚園から高校まで、農家として、子どもたちとますます関わっていききたい。更には、学校給食への農産物の供給。なるべく市内の給食は防府産を入れていただきたい。また、公設市場の改革、基盤整備の推進、農業者の施設・機械の更新や規模拡大の支援、農産物の販路拡大に向けた取組み、そして、こういった会を、なるべくやっただけでは終わらずに、しっかりと、成果を残していきたいと思う。

会長 | 食育や学校給食の話が出たが、防府の子どもたちには、できれば防府でできた野菜、農産物を食べてもらいたいと思っている。

N委員 | 防府花き園芸組合は、昔はマイクロバスで視察するほど人数がいたが、今ではかなり人数が減った。

私の経営でいうと、施設は老朽化が進み、修繕代が大変負担になっている。3戸の農家により構成している法人の中の1戸であるが、構成員の中には後継者がいない農家もあり、今後どうするかが課題である。

私自身は、アナログな人間なので、スマート農業の話にはなかなかついていけない。

経営開始当初は、市場流通のカーネーションが中心で、市場出荷のみでやっていたが、今、流通の系統が非常に変わった。直売所ができ、市場の値段が悪くなり、どこで売ることが課題になっている。

花き以外も同じ状況だと思うが、経営は厳しい状況が続いている。花の単価は、昔からほぼ変わらないか低迷しているのに対し、労賃は上がり、重油は高騰し、資材費も値上げしている。そして売り方。市場流通だけではなかなか難しくなっている。

県外で儲けている農家は、こだわりの物を作ってネット販売していると聞いた。

スマート農業と言われているが、作る技術は持っているが、売るところでつまづいていないのではないかと。私は今、1日のうち3時間は運送屋になっている状況。「スマート」を使った販売戦略があればと思う。売ることが出来れば、設備投資もできる。

自分の圃場には、いろんな人が視察に来るので、見られたときに「こういう風にやりたいな」と言われる圃場づくりを意識している。

防府市の農業について、これからいろいろ勉強し、提案もしていきたい。

会長

ありがとうございます。販売戦略も、しっかりとやっていかなければならないと思う。

O委員

私の地区は、上下水道、スーパー、病院、コンビニなど何もないが、住民はいたって元気に暮らしている。防府駅までほぼ信号はなく10分程度で行け、地区内のイベントも多く、賑やかな暮らしやすい場所である。私個人の意見だが、地区内でできた農産物は地区内で消費するなど、地区内で循環させていく形をとらなければ、誰も助けてくれないし、集落がなくなるのではと思っている。この度の防府市の事業は、これが少し大きくなったレベルの話ではないかと思う。単独市政として残ったので、この規模だからできる、防府市内で循環できる農業、食育等を含め、防府市内でまずは消費していくことが大事ではないかと感じる。スーパーで、なぜ旬の時期なのに防府産や県内産がないのかということがよくある。まずは防府市のスーパーや施設などで消費してもらえようようなことができないかと考える。

私は、農業大学校で研修を受けた。各種補助制度を活用させてもらったが、新規就農者が、全員がうまくやっていけるかと言われると疑問である。

防府市に一つ、大きな会社のような組織をつくって、事業をやっていくのはどうか。みんなで補い合い、農家として生活できる、農家としてやっていける、やりたいこともできる、というような組織があればと思う。曖昧であるが、個人が主張しすぎてうまくいかない、というよりは、なんらかの組織が出来ないかと思っている。

会長

地産地消、新規就農についてお話、ありがとうございました。

P委員

牧草地があり利用権設定させてもらっているが、二種農地であるが故に、売却を希望する持ち主から「返してくれ」と言われ、どうすることもできない。利用権が切れたと言われればそれまでだが、持ち主の代が変わればそういう事情もある。そういう中で農業を継続していかないといけないので、これから先について、家族一丸となってやっていこうと思っている。

耕畜連携にも取り組んでいるが、米農家さんの高齢化で、作業がなかなか出来ない。市外の組合に委託しているが、補助金が多くても他人がやれば収益が減る。今年は天気が良くて作業がはかどったが、去年は天気が悪く、圃場に入れられない状態で大変だった。

今、新しい取組みとして、山口市の農家と、飼料用とうもろこしの給与をしている。山口市の耕作放棄地解消の取組みで、1法人を中心にやられている。家畜に濃厚飼料として給与するもの。新しい産業をやっていく、と力を入れておられる。今年、防府市内でも作付されるという話がある。

また、飼料米をもみ米として乾燥、粉碎し、濃厚飼料として給与している。これにより、

牛乳の味がまろやかになる。最近の牛乳は美味しくないというクレームをよく聞く。県内産の餌で改善できればと思う。輸入飼料に頼っていたが、今後は県内産に変えていきたい、という目標を立てている。

会長 牛の飼料の地産地消、という貴重な意見だった。

Q委員 小規模な農業の状況をお伝えしたい。定年退職後、「田を預かってほしい」とよく言われる。現在、水稻6反を預かっている。6反といっても11枚あり、全部棚田で、石垣が草刈の妨げになり機械にも負担である。地区内に、水稻の認定農業者はほとんどおられない。担い手はもちろん見当たらない。保全管理等を農業公社等に頼むと年間十数万円掛かるので、太陽光設備の業者に農地を買ってもらおう、という状況。それでもまだまだ農業をやろう、という人はいるが、「機械が壊れたら更新する余力はない」と辞められる場合が大変多い。一方で、辞められた人の倉庫に眠っている機械がたくさんある。「農機バンク」を創り、低額で貸し出しができれば、多少でも、農業を継続できるのではないか。

南部は、法人でどんどん進めていくべきだと思う。集積も進めるべき。しかし、私の地区は、家族経営の農業で頑張るしかない。家族農業の支援が今ないので、ぜひ、支援していただきたい。防府市は、小規模農家が7割を占め、市内の農地を頑張って維持している。ぜひ検討してほしい。

それと人材不足。園芸作物では、植え付け、収穫時に手間が掛かる。農福連携が出来ないかと施設に相談に行ったが、なかなかお互いの条件が合わず、難しいのが現状。市内に事例はあると聞いているが、ぜひ、分かりやすい情報提供をしていただきたい。

山大に援農隊というのがあると思うが、情報が分かりにくい。また、地元には農大があるので、協力をいただけないか。土日のアルバイトで良い。募集を受け付ける、紹介するという形をぜひとっていただきたい。

新規就農者は、儲かる農業を目指す。そのため、園芸に集中している。大規模な農業は難しい。小さい圃場の農業でないと難しいのでは。近年災害、獣害も多い。森林が荒れている。多面的な農地の機能も考慮し、支援策等を考えていただきたい。

会長 牟礼地区の現状をお話いただきありがとうございました。

R委員 地区には、耕作放棄地がたくさんある。6年前に、将来の農地のあり方を考えるグループを立ち上げ、現在、概ね全員の地権者の同意を得ており、基盤整備に向け、毎週1回協議をしている。県や市などの関係機関とも定期的に会合を重ねて、平成32年度の採択を目処に進めている。しかし、世話人である耕作者は、ほとんどが70歳前後であり、圃場整備完了後の担い手不足が懸念され、後継者については大変困っている。

この度、牟礼に農業試験場が設置されることから、防府市が山口県の農業の拠点となることが考えられるが、併せて、農道牟礼小野線が開通すれば、今後の小野方面には、いろんなことで期待ができ、基盤整備後の法人化にも繋がるのでは、と考えている。小野地区

においては、早期の完成をよろしくお願い申し上げます。

会長

農道の話もあり、小野地区が発展していくように協力していきたいと思っている。
今まで、いろんな意見を伺った。農林業の経営の厳しさ、課題をあらためて伺うことができた。新規就農、地産地消、集落営農法人の課題等、しっかりと受け止めていきたい。
オブザーバーでお越し頂いた皆様にも、ぜひ受け止めていただければと思う。
本来ここで意見交換をしっかりとやりたいと思っていたが、時間がかなり押しているので、ご発言なり、各委員からの意見に対する質問がある方はお願いしたいがいかか。

J委員

この会は、意見を言う場であり、次回もあると思うが、きょうの意見を集約し、分析し、いい話だけでなく、各問題について出来るか出来ないか、次回の懇話会で公表していただきたい。

会長

懇話会ですから皆さんにフリーで、また、立場を越えて、個人でもしっかり意見を言っていたきたい。

行政には、出来ることと出来ないことがある。私は、出来ないことは出来ない、と言うことをモットーとしている。出来ることはすぐやる。出来ないことは出来ないと言わせていただく。本日、事務局もしっかりお話を伺った。出来そうなことは、私の頭の中ではいろいろと考えている。

年何回か会を開催する。今日は、皆さんの思い、どんなことをされているかを学ばせていただいた。県から新たな農林業の拠点の説明もいただいた。資料をお持ち帰りになり、しっかり見ていただいて、いろんなニュースでも出ると思うので、それらをしっかり踏まえていただきたい。近いうちに、次回懇話会を開くので、特に構えることなく、防府市の農林業の話をする場にしたい。その中で、出来るものはやる、出来ないものは出来ない、また、JAと一緒にやっていくものは一緒にやっていく、森林組合と一緒にやっていくものは一緒にやっていく、各部会、地域のこともあると思うし、みんなが課題を共通認識して、出来ることは乗り越えていこうと考えている。

J委員

次から普段着で良いか。

会長

次はノーネクタイで、農林業らしい懇話会にしたい。

(一同賛成)

それでは以上で、閉じさせていただきます。本当に、本日は皆様ありがとうございました。

閉会